

## 古河電気工業(株) 事業 IR 説明会 質疑応答録 (要旨)

日時：2020年11月24日(火) 14:15-15:00

内容：電装エレクトロニクス材料事業

説明者：執行役員 電装エレクトロニクス材料統括部門長 寺内 雅生

陪席者：銅条・高機能材事業部門長 山本 尚志

銅条・高機能材事業部門 副事業部門長 松村 泰三

銅条・高機能材事業部門 技術企画課長 三原 邦照

導電材事業部門長 富松 智

古河マグネットワイヤ株式会社 社長 長谷川 繁幸

取締役兼執行役員 財務・グローバルマネジメント本部長 福永 彰宏

Q：汎用品について、他社との協業など含めたさらなる集約などの可能性は？

A：導電材事業部門においては、コモディティ品と、量は少ないが高機能品があり、この体制は今後も変わらないと考えている。また、2011～2012年に従来の千葉と三重の2拠点体制から三重一極体制としたことで、現状、三重の工場では比較的高い稼働率を維持できている。

Q：市況回復後、事業全体としてどのぐらいの収益水準を目指せるのか？

銅条は過去に比べて数量減による収益の落ち込み幅は限定的になっているように思うがどうか、また製品ミックス改善の進捗は？

導電材は従来の収益水準は期待できるのか、そのための施策は？

A：全体的に19年度は米中貿易摩擦による巻線や銅条への影響、20年度上期はコロナにより全事業への影響が大きく、収益を下げってしまった。下期は受注が回復しており、米中貿易問題やコロナ第3波のリスクはあるが、上期比ではかなりの改善を見込める。21年度はV字回復を狙っていききたい。

銅条・高機能材事業部門においては、エレクトロニクスと自動車関連が最も注力すべき市場であり、合金開発力含め二桁(億円の収益)を想定している。電動化等による車のエレクトロニクス化も含めた自動車向けは3割程度、データセンタや車載用電池向けは2桁以上の伸びを見込んでおり、これらの市場向けに注力していく。また、過去と比較して、ものづくりの見直しやグループ変革本部の活動成果も出ている。さらに固定費を下げ、損益分岐点を下げ、収益最大化を図っていく。5GやCASEという変化のなか、製品ミックスは今後も改善していく余地がある。まだ比率は高くないが、高付加価値製品の比率を向上させ、事業体質を強化していく。

収益改善において、導電材事業部門としては数量増が必要だが、現状、数量増という意味では市況が厳しい。電装エレクトロニクス材料セグメント全体として、18年度(営業利益60億円)レベルの収益水準に戻すには、数量増に加え原価低減も必要。事業部門収益という観点では、グループ内向け(電線や巻線用など)の売上構成が大きく、これら事業の収益と合わせて事業性を見る必要があると考えている。

Q：エレクトロニクスや自動車で成長や収益向上を牽引する具体的な用途は？

A：自動車は軽量化・小型化要望により、部品の多極化に伴う低挿入（容易に抜き差し可能）メッキ端子、電池の電流検知器用など合金特性を活かした製品に注力。エレクトロニクスはスマホ、パソコンだけでなく自動車の電装化が進展するなか、モジュール化/小型化要求に対し高強度/高導電性の材料が要望されている。また我々の無酸素銅条は高純度・高品質が強みであり、自動車およびエレクトロニクス市場を攻めていきたい。

Q：主要事業の用途/顧客構成について教えてほしい。

A：導電材事業部門の売上は、グループ内向けが約6割。（グループ外向け含めた）内訳は電線市場向け6割、太物巻線市場向け3割、その他1割。アルミハーネス向けはまだボリュームは少ないが伸びている。巻線（細物）事業はエレクトロニクス、自動車向けがメイン。銅条・高機能材事業部門は自動車関係を含むエレクトロニクス関連向けが約4割を占める。

Q：巻線事業の成長戦略は？

A：太物巻線は合併会社で行っており、14拠点で、日本、欧米・中国の顧客に対応。日本顧客向けは、導電材事業部門から太物巻線用に母材を供給している。細物巻線事業はスマホ向けなどエレクトロニクス市場向けで高い市場シェアを持っており、今後も数量をしっかりと維持し利益を稼いでいく。

Q：無酸素銅の収益性水準と今後の成長見通しについて。他社製品との違いは？コストの安さが強みという話もあったと思うが？

A：無酸素銅条自体は他社も同様の製品を持っているが、特にGOFCという特徴のある製品が当社の強み。高純度でJISの認定も受けており、我々しか対応できない顧客向けをターゲットに提供していく。また、シャフト炉による製造方法でありコスト面で有利である。導電材事業部門でも無酸素銅線をSCRという製法で製造しており、コスト面の優位性を持っている。製造能力の余力もあり、成長する自動車向け（合併会社での太物巻線用等に供給）など顧客に対する供給面での安心感も提供できる。

以上